

農業支援AI/SaaSは、農作業を自動化し農業DXを実現します！

圃場整備・田植えは
アウトソーシング



農業支援SaaS (AI機能搭載) により
水田の見守り作業や水位管理作業が自動化されます



収穫作業は
アウトソーシング



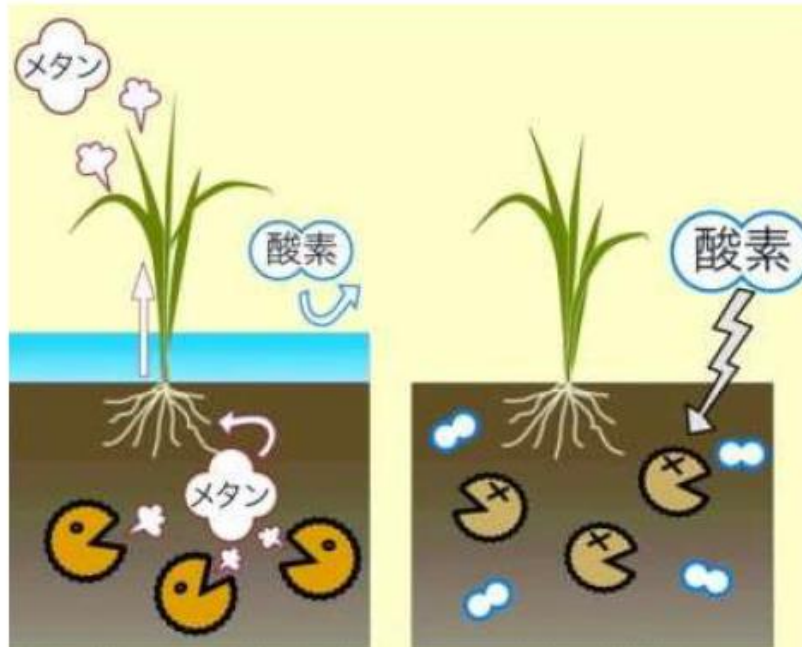
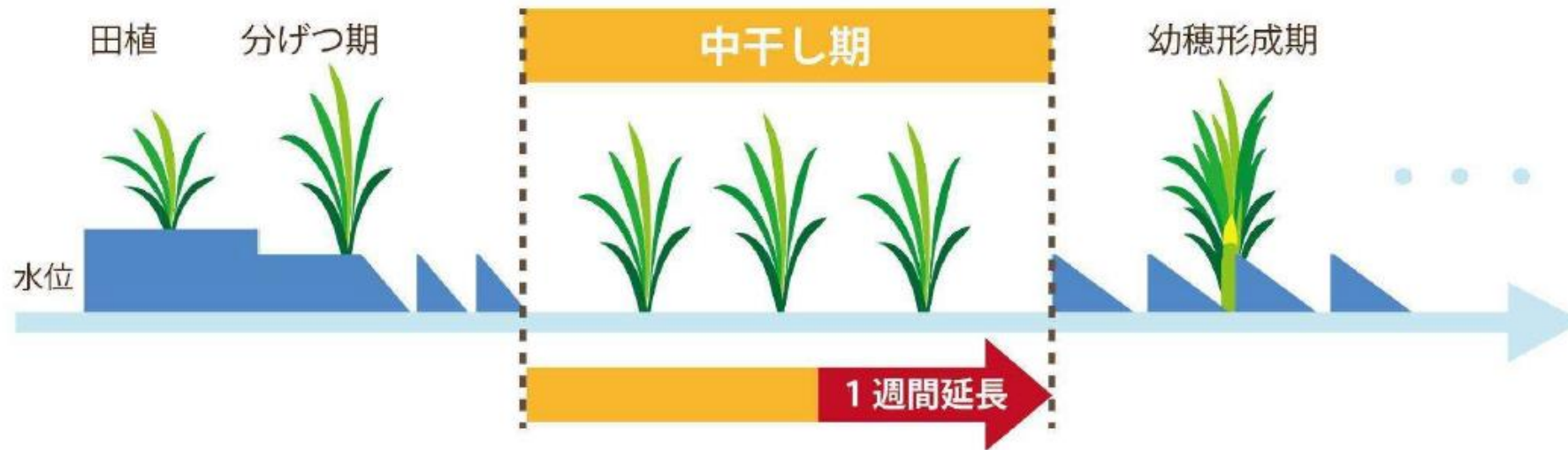
農業支援AI/SaaSにより稲作作業の約80%が省力化可能です

- 圃場の作物の生育画像が、毎日、稲作SaaSのポータルに表示されます
- 圃場センサーの計測データや生育画像データをAIが自動判定し、生育ステージ、草丈や茎数を稲作SaaSポータルに表示します。栽培管理者は、日々の圃場見回り、生育観察の作業は不要となります
- 農業支援SaaSは、水門の開閉を自動で行い、生育ステージ毎の最適な水田水位を維持します
- 農業支援SaaSの自動水位管理により、中干期間を延長し温室効果ガス メタンの発生量を削減することができます
- 移植後、収穫までの間の稲作作業は農業支援SaaSが自動で行います。無人稲作が可能です

農業支援SaaSのポータル画面



温室効果ガス メタン(CH₄)削減の取り組み



(左) 温水時：メタン生成菌の働きでメタンが発生する
(右) 落水時：土壌に酸素を供給してメタン発生を抑える

温室効果ガスメタン(CH₄)削減

30%

農業支援SaaSの無人水位管理による自動化で「中干期間延長」が可能！！
中干期間を約1週間延長させることで、
温室効果ガスメタンの発生量を約30%削減させることができる。

とくしま経済

わが社のSO戦略

サテライトオフィス

②

人間の肌にも含まれる 会社設立以来、東京本社以外「スクワレン」という物質 外の拠点を探していた三谷を使った、100%天然成 社長の、2016年3月、分の美容オイルなどを販売 神山町の神山バレー・サテする化粧品企画開発・製造 ライトオフィス・コンプレのアリエス(東京)。三谷 ツクスで消費者庁の地方移博明社長「」は吉野川市鴨 転に向けた試験業務が行わ島町出身で、美馬市地域交 れたニュースを知り、同年流センター「ミライズ」な 9月、同所に県内第1号のど県内5カ所にサテライト 拠点を設けた。

アリエス 美馬市脇町など

ひとこと

阿波銀行経営統括部人事課長代理・藤川康伸さん(県主催のUターン促進イベントに地元企業のUターン経験者として参加。地元採用を積極的に行っている。人口減少が進む中、地域や企業の魅力を感じてもらい、Uターン増加や地方創生につなげたい)

「Da(きーだ)」、21年10月には、化粧品容器など、会月同阿波市のコワーキング 社が扱う資材全般の発注と施設、22年4月にミライズ、23年4月に美馬市内の空き店舗にSOを開設した。

県内に常駐する社員は地元採用の2人。KiDaの魚野美香さん(45)と、ミライズの道倉沙里さん(34)

会社概要
◇設立 2013年
◇従業員数 6人(うち県内2人)
◇売上高 4千万円(23年9月期)



災害やコロナ禍

きっかけは東日本大震災を踏まえた業務継続計画(BCP)の一環だった。

災害やコロナ禍

稲作の水管理無人化

スタンシステム実証実験

25年度実用化へ

業務システム設計・開発のスタンシステム(徳島市)が、稲作の水管理を無人化するシステムを開発した。センサーやカメラで水位や生育状況を観測し、自動で給水栓を開閉する仕組み。美馬市などで実証実験を行っている。2025年度の実用化を目指している。

カメラで監視 給水栓を自動開閉

システムの仕組みは、水に適した水位になるよう給水田に給水栓開閉装置、温度 栓を自動で開閉する。湿度・水位・水温を感じ、同社によると、これまでセンサー、生育状況を 稲の生育状況や温度、水位撮影するカメラを設置。各 なを自動で監視し、スマートフォンで農家が給水栓が無線通信を通じてクラウドを操作するシステムはあったが、給水栓の開閉を自動に集まり、プログラムに 化するの初めてという。



実証実験を行っている水田に水を張る給水栓自動開閉装置＝美馬市脇町別所

一般的な稲作農家は、田植えから収穫まで、毎日のように水田に向き、最適な水位になるよう水位を調整している。自動でできれば大幅に省力化でき、耕作放棄の防止が期待される。システムを導入する農家が支払うコストは十数万円に収まる見通し。きめ細かい水管理により、作物中のヒ素やカドミウムなどの毒素を減らす効果もある。

開発のきっかけになったのが、同社がグループ会社のスタン(同)向けに構築したガスの遠隔検針システム。

ム。検針データを送信するため県内9カ所に整備した無線通信設備を有効活用し、稲作の水管理に使うことにした。

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の委託研究として採択され、6月から県内11カ所の水田で実証実験を行っている。

県立農林水産総合技術支援センターが、画像で生育状況を判断する技術開発などに参加している。これまでの稲は順調に育っており、実験は24年度も続ける。

実験を行っている水田の所有者、藤山勝利さん(39)は「美馬市脇町野村」は「水の管理に行かなくてよくなるようになった。システムが広がることを期待している」と語る。同社の真鍋厚社長は「農業のDX(デジタルトランスフォーメーション)になる。国内外の見本市で売り込みたい」と話している。(宮本真)

社員の幸福追求

8月の倒産4件
3カ月ぶり増加

帝国データまとめ

帝国データバンク徳島支店がまとめた8月の法的整理による県内企業倒産(負債額1千万円以上)は前年同月と同一4件で、3カ月ぶりに増

STAN

スタンシステム株式会社 <https://www.stansystem.co.jp/>

担当者: 眞鍋 amanabe@stansystem.co.jp

770-0941 徳島県徳島市万代町3-5-4 TEL: 088-602-7777

FAX: 088-602-7778